

■岩崎弥太郎 維新直後に政府と手を結んで海運業を独占、巨利を得て、のちの三菱財閥の祖となった。

いわさきやたろう

高島砲術・1834＝ 土佐国安芸郡井ノ口村で、郷士の株を売って地下浪人となった岩崎弥次郎の長男に生まれる。母は美和。

大塩平八郎乱1837＝ 3歳：

父に経済観念の無く貧しいながらも、母が教育熱心で、

勲進帳初演・1840＝ 6歳：読み書きを学ぶも、覚えが悪く悪童であったが、

順天堂始・1843＝ 9歳：

阿部正弘首座1845＝11歳：小牧米山の私塾に入って儒学を教えられて後は学問に励むようになり、

叔父から漢文・漢詩も学び、

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝13歳：藩校から褒賞を受ける。

・ ・ ・ ・ ・ 1848＝14歳：高知城下に出て母方の伯父の塾に入るも、

破門され、再び村で勉強するうち、

万次郎帰国・1852＝18歳：許されて復学、

ペリー来航・1853＝19歳：師が死去して行き詰まり、

開国開港・1854＝20歳：塾の大先輩・奥谷慥斎が江戸詰になることを聞きつけると、その従者になって江戸に出た。

安政大地震・1855＝21歳：奥谷の尽力で安積良斎に入門するも、父の災厄知り、仇討ちのため帰郷、官吏侮辱の落書で投獄される。

蕃書調所・1857＝23歳：喧嘩両成敗の形で出獄したが、追放処分となり、神田村に住む。

五ヶ国条約・1858＝24歳：再び高知に出て、後藤象二郎の紹介で塾居中の吉田東洋門下に入る。

安政の大獄・1859＝25歳：東洋が藩政に復活して士分に取り立てられ、長崎に出張するが、放蕩によって借金を抱え、

桜田門外変・1860＝26歳：勝手に帰国したために免職。逆境に落ちたが、新田開発や官林伐採を行い、

遣欧使節・1861＝27歳：郷土の家格を回復。

生麦事件・1862＝28歳：結婚。東洋が暗殺されて、藩政主導者が武市一派へ変わり、危うく殺害されるところを免れたもの、再び村に帰って塾居するうち、

薩摩藩士密航1865＝31歳：長男久弥誕生。後藤象二郎が大目付に復活したことから、三郡奉行の下役に召し出され、

薩長同盟・1866＝32歳：新設された土佐藩(開成館)貨殖局に勤務となるも、同僚らに愛想をつかして辞職。

大政奉還・1867＝33歳：開成館長崎出張所に勤務、土佐商会主任となり、坂本竜馬やグラバーらと交渉。新留守居組に昇進。

明治維新・1868＝34歳：格式馬廻に昇進するが、佐々木高行と対立して辞任。

戊辰戦争終・1869＝35歳：大阪にある藩の大坂商会の幹部に転出し、

初の日刊新聞1870＝36歳：高知藩の権少参事となる。新政府が藩の商会経営を禁じたため、同会を継承、九十九商会と改称、

廃藩置県・1871＝37歳：一旦組合の経営をして、過去の清算と鉱山や樟脳製造などの払い下げを受け、

明治6年政変 1873＝39歳：父が死去。\*社名を三菱商会と改名して独立、汽船会社として活動を開始する。

佐賀の乱・1874＝40歳：本店を東京に移し、国策会社が断った征台軍のサポート業務を引き受けて成功させ、大久保利通と大隈重信の絶大な信頼を獲得、以後、政府の幹部と結んで特権的な助成や優遇を受けるようになり、

初の民間工場1875＝41歳：国策会社を吸収合併して、郵便汽船三菱会社(略称三菱会社)と改称、

三つの反乱 1876＝42歳：アメリカとイギリスのライバル企業を、相次いで撃破、

西南戦争・1877＝43歳：\*軍事輸送を一手に引き受けて、莫大な利益を上げ、ついに、三井と肩を並べる大会社へと成長、

大久保暗殺 1878＝44歳：勲4等。脳病を患う。多角経営に乗り出し、後藤象二郎所有の高島炭坑を譲受けるなどしたが、

琉球処分・1879＝45歳：

明治14年政変 1881＝47歳：政変後、三菱征伐の動きが急速に強まり、

新体詩抄・1882＝48歳：長州閥や三井系が共同運輸会社を設立、

共倒れに近い競争がつづくうち、

秩父事件・1884＝50歳：\*胃癌となり、

内閣発足・1885＝51歳：没した。

弟の弥之助が2代社長となった。